

科目名	外国語(英語)Ⅱ						
科目名(英)	Foreign language Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	マックス・ゴンザレス トム・エモット		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	2名とも学校にて英語講師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	病院を受診・入院してきた患者への看護英会話(レベルアップ)1						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Personal Information Introducing a Friend ができる。	
	○	○				Departments & Occupations in a Hospital がわかる。	
	○	○				Emergency English を使って患者の基本情報を聴取できる。	
	○	○				Symptoms-Usage を使って患者の症状を問診できる。	
	○	○				入院時に病棟内の場所や備品を説明することができる。	
	○	○				病院の中にある備品の英語がわかる	
	○	○				Diseases(Disorders) Word を使って患者の病歴を聴取できる。	
	○	○				検査時の指示をすることができる。	
	○	○				Hospital Testsの英語がわかる。	
テキスト・教材 参考図書	こころの看護英語物語 Challenge Book						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1・2>Do you work on the surgical ward?(困ったときの英語)			配布資料の事前通読		
	2	<時間:3・4>Do you work on the surgical ward?(診療科名)			配布資料の事前通読		
	3	<時間:5・6>Do you work on the surgical ward?(患者の基本情報)			配布資料の事前通読		
	4	<時間:7・8>What's your problem today?(検査時の会話)			配布資料の事前通読		
	5	<時間:9・10>What's your problem today?(患者の症状)			配布資料の事前通読		
	6	<時間:11・12>What's your problem today?(病室での会話)			配布資料の事前通読		
	7	<時間:13・14>What's your problem today?(診療科)			配布資料の事前通読		
	8	<時間:15・16>This is the nurses' station.(病院の中にある備品の単語)			配布資料の事前通読		
	9	<時間:17・18>This is the nurses' station.(病院の場所の単語)			配布資料の事前通読		
	10	<時間:19・20>This is the nurses' station.(病棟内の場所や備品の説明)			配布資料の事前通読		
	11	<時間:21・22>This is the nurses' station.(入院時オリエンテーション)			配布資料の事前通読		
	12	<時間:23・24>This is the nurses' station(病歴・症状の単語)			配布資料の事前通読		
	13	<時間:25・26>This is the nurses' station(患者の病歴・症状の聴取)			配布資料の事前通読		
	14	<時間:27・28>You need to have an MRI.(検査における単語)			配布資料の事前通読		
15	<時間:29・30>You need to have an MRI.(検査指示・説明)			配布資料の事前通読			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭試問と筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	口頭試問・筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	社会福祉と社会保障 I						
科目名(英)	Social welfare and social security I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	浦川弘美 桂木瞳 有田茉佑 子 石田奈苗 後藤恋 笹田幸 秀 桑野愛理		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	全員病院にて社会福祉士として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	社会保障の理念と基本的な制度についての考え方の理解や、法律に基づく生活者の生活問題に対する社会福祉の方法と課題について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				社会福祉の概念・理念と変遷、生活と社会福祉との関わりが理解できる。	
	○	○				社会保障の定義と社会保障制度の歴史が理解できる。	
	○	○				社会福祉の担い手の種類・役割が理解できる。	
	○	○				社会福祉実践の目的や社会資源の活用方法について理解できる。	
	○	○				障害者福祉に関する施策について理解できる。	
	○	○				社会保障制度の仕組み、高齢者保健福祉施策の社会的背景を理解できる。	
	○	○				地域福祉計画とは何かが理解できる。	
○	○				子育て支援・少子化対策・児童虐待・母子保健・難病に関する施策について理解できる。		
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 社会福祉と社会保障						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	＜時間:1・2＞現代社会と社会福祉・社会保障			配布資料の事前通読UU22:AD34		
	2	＜時間:3・4＞暮らしと社会福祉・社会保障			配布資料の事前通読		
	3	＜時間:5・6＞社会保障の定義			配布資料の事前通読		
	4	＜時間:7・8・9＞社会福祉・社会保障の歴史			配布資料の事前通読		
	5	＜時間:10・11・12＞ソーシャルワーカーの役割			配布資料の事前通読		
	6	＜時間:13・14＞社会福祉の実践方法			配布資料の事前通読		
	7	＜時間:15・16＞社会資源の活用方法			配布資料の事前通読		
	8	＜時間:17・18＞ライフサイクルと社会福祉:子ども・家庭福祉の施策体系と制度			配布資料の事前通読		
	9	＜時間:19・20＞ライフサイクルと社会福祉:障がい者と福祉			配布資料の事前通読		
	10	＜時間:21・22＞社会保障(社会保険)制度:年金制度			配布資料の事前通読		
	11	＜時間:23・24・25＞社会保障(社会保険)制度:介護保険制度			配布資料の事前通読		
	12	＜時間:26・27・28＞保険・医療・福祉の連携:地域福祉計画			配布資料の事前通読		
13	＜時間:29・30＞保険・医療・福祉の連携:保健所法			配布資料の事前通読			
評価方法	筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護学概論Ⅱ(事例検討)									
科目名(英)	Introduction to nursing science II: Case study									
単位数	1単位	時間数	15時間/30時間	担当者	上田朋紀					
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務					
対象学科・学年	看護科・2年									
授業概要	看護過程実習の思考の集大成として看護過程の展開について事例を下に再学習をする。机上でヘンダーソン理論と看護過程の展開を学んだ内容と事例との関連図ける内容である。学習方法は、実習中のメンバーとグループワークにて進めていく。									
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				看護過程の概要を説明することができる。				
	○	○				看護過程の基盤となる考え方を説明することができる。				
	○	○				アセスメント(情報収集)について説明することができる。				
	○	○				アセスメント(情報の分析・解釈)について説明することができる。				
	○	○				ヘンダーソンの看護論に基づくアセスメント・事例におけるアセスメントについて説明することができる。				
	○	○				看護問題の明確化について説明することができる。				
	○	○				看護診断・共同問題の表記について説明することができる。				
	○	○				問題の優先順位について説明することができる。				
	○	○				ヘンダーソンの看護論に基づく問題の明確化・事例における問題の明確化について説明することができる。				
○	○				看護計画について説明することができる。					
○	○				評価について説明することができる。					
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 看護学概論 系統別看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 実習中のファイル									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	＜時間1＞看護過程の概要～看護過程とは/構成要素間の関係～※時間1～15:グループワーク				キーワードを下に事前調べ				
	2	＜時間2＞看護過程の基盤となる考え～問題解決型思考/目標志向型思考～				グループワークの振り返り				
	3	＜時間3＞看護過程の基盤となる考え～クリティカルシンキング/倫理的配慮/リフレクション～				グループワークの振り返り				
	4	＜時間4・5＞アセスメント～情報収集～				グループワークの振り返り				
	5	＜時間6・7＞アセスメント～情報の分析・解釈～				グループワークの振り返り				
	6	＜時間8・9＞看護問題の明確化～看護問題と看護診断～				グループワークの振り返り				
	7	＜時間10＞看護問題の明確化～共同問題～				グループワークの振り返り				
	8	＜時間11＞看護目標～短期目標・長期目標～				グループワークの振り返り				
	9	＜時間12＞看護目標～共同問題での目標の考え～				グループワークの振り返り				
	10	＜時間13＞看護計画～OP・CP・EP～				グループワークの振り返り				
	11	＜時間14＞評価～評価とは・時期・種類～				グループワークの振り返り				
12	＜時間15＞事例検討～まとめ～				グループワークの振り返り					
評価方法	・看護理解について、各グループ口頭試問にて確認。(グループワーク中の態度含) 学生に提示した評価表にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	口頭試問	◎	◎		◎		100%			
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。									

科目名	成人看護学方法Ⅱ (BLS・救急看護)						
科目名(英)	Adult methodⅡ BLS・emergency nursing						
単位数	2単位	時間数	10時間/60時間	担当者	①小田浩之 ②吉川 英里		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて①医師・②看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	重点的な医学的管理を要し、深刻なセルフケア困難に陥っている成人の危機を予防・回避することを目標とした看護を学べる内容を教授する。本科目では、救急医療および、看護の視点を中心に学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 救急看護の場・対象・特徴を述べるができる。	
	○	○				2. 救急看護の役割(ABCDE・外傷・中毒・熱傷)について述べるができる。	
	○	○				3. 救急患者の身体的問題および心理・社会的な問題について述べるができる。	
	○	○				4. ショックの定義とその兆候・原因について説明できる。	
	○	○				5. スタートトリアージ・心肺蘇生法の実践ができる。	
テキスト・教材 参考図書	講師資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	＜時間:1・2＞スタートトリアージ・心肺蘇生法の実践ができる。(小田)			配布資料の事前通読		
	2	＜時間:3・4＞救急看護の概念(小田)			配布資料の事前通読		
	3	＜時間:5・6＞救急看護の対象の理解(吉川)			配布資料の事前通読		
	4	＜時間:7・8＞主要病態に対する救急処置と看護(吉川)			配布資料の事前通読		
	5	＜時間:9・10＞免疫機能の観察とアセスメント(吉川)			配布資料の事前通読		
評価方法	・2名の講師による講義内容を筆記試験各50% 合計100%にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(小田)	◎	◎				50%
	筆記試験(吉川)	◎	◎				50%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 成人看護学方法Ⅱ2単位取得には、(成人看護学方法Ⅱ循環器100%+呼吸機能障害50%+生態防御25%+血液機能障害25%+救急看護論100%)/3=60%以上が必要。						

科目名	母性看護学方法Ⅱ						
科目名(英)	Matrnrity nursing method Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	浅見詩織		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて、助産師として勤務 専任教員として教育に従事		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	母性看護学方法Ⅱでは、母性看護学方法Ⅰでの学びに加え、各期における看護を学ぶとともに、新生児の看護についても学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 各期における異常と母子に及ぼす影響について学び、対処方法を説明することができる。	
	○	○	○	○		2. 新生児の胎外生活への適応と異常について説明することができる。	
	○	○				3. 妊娠・分娩・産褥及び新生児の生理的変化が順調に経過するための看護方法を説明することができる。	
	○	○				4. 異常時の看護師の役割を述べるができる。	
	○	○				5. 母性を取り巻く地域の保健・医療・福祉の活動を学び、対象者に応じた援助方法を考えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	＜時間:1～4＞妊婦と家族の看護・妊婦の保健指導の実際			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	2	＜時間:5～11＞産婦と家族の看護・分娩期の看護の実際			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	3	＜時間:12・13＞新生児の生理			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	4	＜時間:14～17＞新生児のアセスメント・看護			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	5	＜時間:18・19＞産褥婦と家族の看護			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	6	＜時間:20・21＞沐浴			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	7	＜時間:22～24＞ハイリスク妊婦の看護・異常のある産婦の看護			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	8	＜時間:25～27＞異常分娩時の産婦の看護・新生児の異常と看護			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	9	＜時間:28～30＞新生児の異常看護・褥婦の異常と看護			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	・講義内容を 筆記試験 にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	母性看護学方法Ⅲ						
科目名(英)	Maternity nursing method Ⅲ						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	浅見詩織		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて助産師として勤務 専任教員として教育に従事		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	母性看護学方法Ⅲでは、ペーパーペイシエント(正常分娩を終えた褥婦)による看護過程の展開を学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			1. 母性看護学における看護過程の特徴が理解できる	
	○	○	○			2. 母性看護学の記録用紙について理解できる。	
	○	○	○			3. 産褥期のアセスメント項目と診断に必要な情報の視点が理解できる。	
	○	○	○			4. アセスメントができる	
	○	○	○			5. 看護診断の挙げられる	
	○	○	○			6. 看護診断に沿って看護計画の立案ができる	
	○	○	○			7. 褥婦の保健指導の内容にどのようなものがあるか理解できる。	
	○	○	○			8. 模擬患者に必要な指導の指導計画書案を作成できる	
	○	○	○	○		9. 模擬患者の個別性に沿った保健指導が出来る。	
○	○	○			10.保健指導についての意見交換した後、実施した内容をSOAPで評価できる。		
テキスト・教材 参考図書	・母性看護学の講義資料 ・母性看護学各論テキスト ・マタニティ診断ガイドブック 第5版 他						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	母性看護学看護過程について				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	2	模擬患者の基本的欲求に影響を及ぼす常在条件のアセスメント				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	3	模擬患者の基本的欲求を変容させる病理的状态のアセスメント				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	4	模擬患者の基本的欲求を変容させる病理的状态のアセスメント				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	5	模擬患者の基本的看護の構成要素のアセスメント				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	6	模擬患者の基本的看護の構成要素のアセスメント				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	7	模擬患者の新生児のアセスメント				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	8	模擬患者の新生児のアセスメント				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	9	アセスメント・看護計画				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	10	アセスメント・看護計画				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	11	保健指導について				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	12	保健指導案について				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	13	保健指導案について				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	14	模擬患者への保健指導の実施				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
15	評価				母性看護学に必要な資料の準備及び復習		
評価方法	・グループワークにて作成した看護過程のレポート(50%) 個人の課題(50%) 合計100%にて評価を行う。 態度も評価に入れる ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・ワーク中の態度	◎	◎	◎	◎		100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	精神看護学方法 I					
科目名(英)	Mental nursing method I					
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	古賀明弘	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院にて看護師として勤務	
対象学科・学年	看護科・2年					
授業概要	精神障害のある対象の必要な知識の基盤として、主要な精神障害およびその要因、精神症状や問題行動に対する治療と検査について学ぶ。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				1. 脳の部位・神経伝達物質と精神機能の関連について説明できる。
	○	○				2. 精神科における代表的な検査について説明できる。
	○	○				3. 精神科における代表的な治療法:薬物療法・電気けいれん療法・精神療法・リハビリテーション療法について説明できる。
	○	○				4. 精神疾患の概念と診断について説明できる。
	○	○				5. 精神科における主要な疾患:統合失調症・認知症・アルコール依存症・双極性感情障害・不安障害・強迫性障害・PTSD・摂食障害・パーソナリティ障害・知的障害・発達障害とその治療について説明できる。
テキスト・教材 参考図書	・ヌーベルヒロカワ 精神看護学方法Ⅱ 精神臨床看護学。					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	＜時間1＞脳の仕組みと精神機能-脳の部位・神経伝達物質と精神機能				テキスト事前通読
	2	＜時間2＞精神科における検査-臨床検査と心理検査				テキスト事前通読
	3	＜時間3＞精神科における治療-使用される薬物の特徴、効果、副作用				テキスト事前通読
	4	＜時間4＞精神科における治療-電気けいれん療法、精神療法、リハビリテーション療法				テキスト事前通読
	5	＜時間5＞精神疾患の概念と診断について				テキスト事前通読
	6	＜時間6＞主要な疾患-症状を含む器質性精神障害(F0)				テキスト事前通読
	7	＜時間7＞主要な疾患-精神作用物質使用による精神および行動の障害(F1)				テキスト事前通読
	8	＜時間8＞主要な疾患-統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害(F2)				テキスト事前通読
	9	＜時間9＞主要な疾患-気分(感情)の障害(F3)				テキスト事前通読
	10	＜時間10＞主要な疾患-神経性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(F4)				テキスト事前通読
	11	＜時間11＞主要な疾患-生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群(F5)				テキスト事前通読
	12	＜時間12＞主要な疾患-成人のパーソナリティおよび行動の障害(F6)				テキスト事前通読
	13	＜時間13＞主要な疾患-知的障害(精神遅滞)(F7)				テキスト事前通読
	14	＜時間14＞主要な疾患-心理的発達障害(F8)				テキスト事前通読
15	＜時間15＞主要な疾患-小児(児童)期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害(F9)				テキスト事前通読	
評価方法	・講義内容を筆記試験(100%)にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	筆記試験	◎	◎			評価割合 100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	成人看護学実習 I						
科目名(英)	Adult nursing practice I						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 西島明日香 山本勇也		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	全員病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	成人期にある対象を理解し、様々な健康状態にある対象に応じた看護を実践するために必要な基礎的技術・知識・態度を養う。また、健康上の課題を抱えた人の看護を、主に医療施設を中心に、多職種との連携・協働を図りながら看護実践を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 侵襲的治療により、身体的危機状況にある対象の状況を述べるができる。	
	○	○	△			2. 生体機能の急激な変化とその結果、深刻なセルフケア困難に陥っている対象の状況について述べるができる。	
	○	○	○			3. 不安定な状態の生態を考慮し、せりのニード充足のためのセルフケアの援助ができる。	
	○	○				4. 変化の著しい状態にある対象および家族に支持的に関わることができる。	
						5. 急性期にある対象やその家族に関わる医療スタッフ連携を説明できる。	
			○	○		6. 看護師倫理に則して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	成人看護に関するテキスト、講義資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	3 週 間	手術による身体機能の変化、生態反応			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		急激な健康破綻を来した人への看護			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		健康破綻から回復を促進する看護			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		治療に伴う合併症の予防と想起回復のための看護援助			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		健康危機状況における成人の苦痛			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		健康危機状況に二における生活行動			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		医学的治療で要求される生活行動の制限と生活行動の変化			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		健康危機状況にある人の心理的・精神的安定を図るための看護			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		同一組織における多職種の連携			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		各職種間の情報共有、協働・連携			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		退院に向けた支援、外来			成人看護学に必要な資料の振り返り		
評価方法	評価者:指導教員と臨床指導者。 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎	◎	30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学実習Ⅱ						
科目名(英)	Adult nursing practice Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 西島明日香 山本勇也		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	全員病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	成人期にある対象を理解し、様々な健康状態にある対象に応じた看護を実践するために必要な基礎的技術・知識・態度を養う。また、健康障害に応じた日常生活援助と、疾患をコントロールしながらセルフマネジメントするための援助を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 慢性経過をたどる対象の身体状態をふまえ、増悪の予防にむけた援助が理解できる	
	○	○	△			2. 疾病の経過に伴う身体的苦痛、身体機能悪化と緩和ケアについて理解できる。	
	○	○	○			3. セルフケアが障害されている部分に対する援助が実施できる。	
	○	○				4. 生活の再編成や疾病のコントロールができるよう援助することができる。	
	○	○				5. 疾病を持ちながら生活していく過程で、課題を持つ対象や家族の心理的支援が実施できる。	
	○	○				6. 継続的なセルフマネジメントのために、対象に必要な社会資源を考えることができる。	
				○	○		7. 看護師倫理に則して実習を行うことができる。
テキスト・教材 参考図書	成人看護に関するテキスト、講義資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	3 週 間	疾患の経過と予後の予測			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		治療や日常生活におけるセルフマネジメント支援			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		疾患の経過に伴う身体的苦痛、身体機能悪化と緩和ケア			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		長い経過に伴う不安への援助			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		セルフマネジメント、ターミナルステージにおける治療や検査時の看護			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		慢性経過をたどる対象を取り巻く医療チーム			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		看護過程の展開			成人看護学に必要な資料の振り返り		
評価方法	評価者:指導教員と臨床指導者。 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎	◎	30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	老年看護学実習 I						
科目名(英)	Gerontological nursing Practice I						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 田中美香		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当実務者経験	病院(施設)にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	高齢者と健康障害をもつ高齢者の特徴および高齢社会における看護の果たす役割を理解し、老年看護に必要な知識・技術・態度を習得する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴、生活行動、生活援助、施設の役割について説明できる。	
	○	○				2. 療養する高齢者の、生活機能の問題(課題)と必要な看護をアセスメント(分析・判断)し説明できる。	
	○	○	○			3. 療養する高齢者の、強みを活かした生活援助を実施できる。	
	○	○				4. 療養する高齢者の、家族支援や多職種連携の必要性について説明できる。	
				○		5. 高齢者の意思・尊厳を尊重する倫理的態度で実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 ・老年看護学Ⅰ・Ⅱの講義資料、その他老年看護や病態に関する資料、配布資料						
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 週間 (施設)	高齢者の身体的・精神的・社会的特徴				施設について事前学習 老年看護学の授業の復習	
		高齢者の生活行動の特徴				施設について事前学習 老年看護学の授業の復習	
		高齢者のその人らしさ、高齢者を敬う態度				施設について事前学習 老年看護学の授業の復習	
		高齢者の強みを活かした生活援助				施設について事前学習 老年看護学の授業の復習	
		高齢者の生活を支える施設と看護の役割				施設について事前学習 老年看護学の授業の復習	
	2 週間 (病棟)	療養する高齢者の身体的・精神的・社会的特徴				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		療養する高齢者の生活行動の自立度				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		療養する高齢者のその人らしさを知る				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		療養する高齢者の望ましい生活を考える				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		療養する高齢者の生活機能の問題(課題)				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		療養する高齢者の強みを活かした生活援助の方法				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		療養する高齢者の家族を支援する必要性				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		療養する高齢者の望む生活に向けた多職種連携の必要性				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
高齢者の意思・尊厳を尊重する倫理的態度				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習			
評価方法	評価者: 指導教員と臨床指導者 評価基準: 5段階評価 【認知・情意】(70%) 【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法: 記録用紙、発問・発言、行動観察法						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習記録用紙、発言・行動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	小児看護学実習						
科目名(英)	Pediatric nursing practice						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 小金丸翔子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	全員病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	小児期にある対象の特徴を理解し、成長発達段階・健康段階に適した援助について基本的な知識・技術・態度を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 健康な小児の成長発達と援助の方法を説明できる。	
	○	○				2. 小児の成長発達について説明できる。。	
	○	○	○			3. 小児の発達段階、健康障害をふまえてニードや日常生活習慣を分析し、必要とされる看護援助を実施できる。	
	○	○				4. 入院が小児や家族へ及ぼす影響を理解し、より良い看護の方法を説明できる。	
			○	○		5. 看護師倫理に則して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	小児看護学の講義資料 その他、小児に関する学習資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 週間 (保育所)	小児の身体的・心理的発達				小児看護学実習に必要な資料の振り返り	
		基本的生活習慣の把握					
		遊びを通して社会性の発達状況					
		発達段階に応じた保育士の援助方法					
	2 週間	小児特有の情報を収集					
		小児の病態・生活・人間像の情報収集と記述					
		情報の分析から問題の成り行きと看護の方向性					
		看護上の問題の判断					
		看護計画の立案における目標の設定と具体策					
		小児の生活環境の安全管理					
		虐待の事例を基にカンファレンス					
		外来での急性期・慢性期の看護					
		検査・処置における援助の方法					
NICUでの保育環境							
母子関係確立とNICU特有の援助方法							
評価方法	評価者: 指導教員と臨床指導者。 評価基準: 5段階評価 【認知・情意】(70%) 【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法: 記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	在宅看護概論							
科目名(英)	Home nursing Overview							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	角美緒			
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当実務経験	飯塚病院で看護師として勤務			
対象学科・学年	看護科・2年							
授業概要	在宅看護論では、対象・家族の生活習慣・価値観など個性が一層重要であることを念頭に置き、あらゆる発達段階の人間の理解をはじめ、公衆衛生・社会福祉・関係法規・各領域別看護学などで学習している基礎的知識・技術を対象者の状態・QOLに合わせて応用、創意工夫し実践する能力を養う。 在宅看護論では、在宅で生活する疾病や障害をもち療養する人、生活自立が困難で支援を必要とする人とその家族を理解し在宅での看護の基礎を学ぶ内容とする。							
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				1. 在宅看護の目的と特徴が説明できる。		
	○	○				2. 在宅看護の対象者について説明できる。		
	○	○				3. 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用について説明できる。		
	○	○				4. 在宅看護の展開について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	系統別看護 統合分野 在宅看護論							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	＜時間1＞在宅看護のめざすもの 地域看護活動における在宅看護の位置づけ				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	2	＜時間2・3＞在宅看護における看護師の役割と機能 在宅看護の対象者の特徴				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	3	＜時間4・5＞在宅看護に関連した法律・制度①「医療保険制度」「介護保険制度」				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	4	＜時間6・7＞在宅看護に関連した法律・制度「訪問看護制度」				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	5	＜時間8・9＞他職種との連携、対象者の権利保障				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	6	＜時間10・11＞在宅看護の対象者としての家族				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	7	＜時間12・13＞在宅看護における安全性の確保				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	8	＜時間14・15＞在宅看護展開の特徴 在宅看護過程の特徴				テキスト事前通読 適宜課題実施		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を筆記試験(100%)にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。 							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	筆記弛緩	◎	◎				100%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。							

科目名	在宅看護論方法 I									
科目名(英)	Home nursing theory I									
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	角美緒					
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務					
対象学科・学年	看護科・2年									
授業概要	在宅で提供する看護を理解し、基礎的な技術を身につけ、生活自立が困難で支援を必要とする人とその家族を理解し在宅での看護の基礎を学ぶ。									
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
			○			訪問看護師として、また社会人として、マナーを意識しながら振る舞うことができる。				
	○	○				療養者の日常生活を「生活行為」として総合的にみていくこと、また必要な介助を見きわめるための動作分析について説明できる。				
	○	○				「食生活・嚥下」「排泄」「移動・移乗」「清潔」に関して在宅で求められる看護技術を説明できる。				
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 その他在宅看護論に関する資料									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	＜時間1＞在宅における日常生活支援の概要 在宅における日常生活支援の視点				テキスト事前通読 適宜課題実施				
	2	＜時間2・3＞在宅における日常生活支援の概要 在宅訪問のマナー				テキスト事前通読 適宜課題実施				
	3	＜時間4・5＞在宅における日常生活支援の概要 在宅訪問のマナー(実演)				テキスト事前通読 適宜課題実施				
	4	＜時間6・7・8・9＞在宅における日常生活支援(環境・移動・食事・排泄・清潔)のアセスメントの視点				テキスト事前通読 適宜課題実施				
	5	＜時間10・11・12・13＞在宅における日常生活支援(環境・移動・食事・排泄・清潔)のアセスメントの視点				テキスト事前通読 適宜課題実施				
	6	＜時間14・15＞在宅における日常生活支援の実際;在宅におけるケアの意義				テキスト事前通読 適宜課題実施				
	7	＜時間16・17＞在宅看護における対象者の把握と療養生活に応じた日常生活援助(直接支援技術)				テキスト事前通読 適宜課題実施				
	8	＜時間18＞在宅看護における教育(指導)技術・相談技術				テキスト事前通読 適宜課題実施				
	9	＜時間19＞在宅療養者と家族への配慮				テキスト事前通読 適宜課題実施				
	10	＜時間20・21＞在宅における日常生活支援の実際;援助の工夫点と留意点				テキスト事前通読 適宜課題実施				
	11	＜時間22・23＞在宅における日常生活支援の実際;利用可能な社会資源				テキスト事前通読 適宜課題実施				
	12	＜時間24・25・26＞在宅における日常生活支援の実際 (発表)				テキスト事前通読 適宜課題実施				
	13	＜時間27・28＞事故により中途障害者となった成人男性の看護ケア				テキスト事前通読 適宜課題実施				
	14	＜時間29・30＞せき損センター(見学)				テキスト事前通読 適宜課題実施				
15										
評価方法	・講義内容を筆記試験(100%)にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	筆記試験	◎	◎				100%			
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。									

科目名	看護の統合と実践Ⅲ(講義)						
科目名(英)	Nursing integration and practice III						
単位数	1単位	時間数	16時間/30時間	担当者	①福村文雄 ②砥上淳一 ③林真由美 ④清成道子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて①医師・②医療メディエーター③④看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	安全文化の醸成は看護管理の一端である。しかし緩やかに流れていた昔の医療現場と違い今日の、中でも急性期医療の現場を鑑みた場合、単に安全・安心のための確認という手続き論に教育が終わって良いわけではない。また多様な業務を担う看護師であり独特な危険特性が潜む中、体系的に医療安全について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				看護職の法的規定・責務について説明できる。	
	○	○				看護事故の構造を2群に分けて捉え看護事故防止の考え方を説明できる。	
	○	○				国や団体、施設を組織と捉え、さらに安全に対する文化など幅広い視点から医療事故への取り組みを説明できる。	
	○	○				看護業務の中で他職種にも共通・関連する医療事故の視点から医療事故防止を説明できる。	
	○	○				新人職者特有の行動パターンから医療事故防止を説明できる。	
	○	○				チーム医療において安全で適切な医療・看護を提供するために重要なコミュニケーション(SBAR・ノンテクニカルスキル等)のあり方を説明できる。	
	○	○				医療現場で多く発生する医療事故(投薬・食物の提供・転倒転落・褥瘡・輸血・採血・検体等)の種類とその対策を事例(投薬プロセス)と共に説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料 医療事故に関する資料すべて						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	〈時間:1・2〉医療事故、法律、国の施策				配布資料の事前通読	
	2	〈時間3・4〉事故後の対応:組織的な安全管理体制へとの取り組みとわが国の医療安全対策への展望				配布資料の事前通読	
	3	〈時間5・6〉ヒューマンエラーと安全文化:業務領域をこえて共通する間違いと発生要因				配布資料の事前通読	
	4	〈時間7・8〉ノンテクニカルスキル:医療安全とコミュニケーション				配布資料の事前通読	
	5	〈時間9・10〉医療事故の種類と安全対策:投薬プロセスの理解と事故防止				配布資料の事前通読	
	6	〈時間11・12〉医療事故の種類と安全対策:輸液ポンプ・シリンジポンプでの事故防止				配布資料の事前通読	
	7	〈時間13・14〉医療事故の種類と安全対策:ノンテクニカルスキル・SBAR				配布資料の事前通読	
	8	〈時間15・16〉医療事故の種類と安全対策:診療の補助・療養上の世話の関する事故				配布資料の事前通読	
評価方法	・3名の講師による講義内容を筆記試験合計100%にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(福村、清成、林)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 *看護の統合と実践Ⅲ1単位取得には、(概論・各論100%+演習100%)/2=60%以上が必要。						

科目名	看護の統合と実践Ⅲ（演習）						
科目名(英)	Nursing integration and practice III						
単位数	1単位	時間数	14時間/30時間	担当者	椛澤芳江		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	医療安全に関する知識のみの教授に終わらず演習を通して、患者の危険を察知する能力、対処する時に自分の能力を見越した上でどのように対処するのかの判断能力、また自己の思考の傾向についても体験を通して学ぶ。						
授業形式	講義： ○	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間の特性から事故発生メカニズムと医療事故防止対策について学ぶ。	
	○	○				偽医療事故を全員が体験することで実際の医療事故について知る。	
	○	○				模擬医療事故体験を振り返り自己モニタリング能力を知ると共に、自己の傾向や医療事故が発生する環境・要因に気づく。	
	○	○				医療現場での状況下に潜んでいる危険に自ら気づく能力を育むことを狙いとする。	
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料 医療事故に関する資料すべて						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	＜時間：1・2＞事故を誘発する要因			配布資料の事前通読		
	2	＜時間3・4＞「転倒」に偽医療事故体験シミュレーション(事故を誘発する状況)			配布資料の事前通読		
	3	＜時間：5・6＞「転倒」に偽医療事故体験シミュレーション(リフレクションー)			配布資料の事前通読		
	4	＜時間：7・8＞「転倒」に偽医療事故体験シミュレーション(自己の傾向と課題)			配布資料の事前通読		
	5	＜時間9・10＞「転倒」に偽医療事故体験シミュレーション(専門職者に必要な能力)			配布資料の事前通読		
	6	＜時間11・12＞偽医療事故体験の振り返り(リフレクションー)			配布資料の事前通読		
	7	＜時間13・14＞偽医療事故体験の振り返り(自己の傾向と課題)			配布資料の事前通読		
評価方法	評価：提出レポート内容計100% 成績評価基準は、A(91点以上)・B(81点以上)・C(71点以上)・D(61点以上)・E(59点以下)とする。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 看護の統合と実践Ⅲ 1単位取得には、(概論・各論100%+演習100%)/2=60%以上が必要。						